

令和7年7月7日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

山口県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
山口県立下関中等教育学校	山口県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
山口県立下関 中等教育学校	https://www.s-chuto.ysn21.jp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%95%99%E8%82%B2/%E5%AD%A6%E5%8A%9B%E8%82%B2%E6%88%90

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
山口県立下関 中等教育学校	https://www.s-chuto.ysn21.jp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%A6%82%E8%A6%81	https://www.s-chuto.ysn21.jp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%A6%82%E8%A6%81

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

☐ 一部、計画通り実施できていない

☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

☐ 実施していない

<特記事項>

学校ホームページ、学校だよりによる情報発信及び本特例校が主催するPTA総会、保護者懇談会、学校公開（授業公開、学校説明会、入学者選抜説明会等）の活用等により、積極的な情報提供を行っている。

3. 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

下記１のとおり、本特例校のグラデュエーション・ポリシーは、「自主・気概・向上」であり、スクールミッションとして「６年間の連続した中高一貫教育を推進することによる、幅広い年齢集団での協働的な学びや海外との継続的な交流を通じた学びを生かして、豊かな人間性と主体性を育み、グローバルな視点に立って国際社会で活躍できる人材を育成する」ことを掲げている。これらの実現に向けて、下記２のとおりカリキュラム・ポリシーを策定し目標の達成をめざしている。

１ グラデュエーション・ポリシー ～卒業時に身につける力・卒業認定～

「自主」 夢をもち、主体的に行動できる人になる

「気概」 努力し、困難を克服できる人になる

「向上」 志を高め、社会に貢献できる人になる

２ カリキュラム・ポリシー ～教育の方針～

（１）大学・地域連携 コミュニティ・スクールの仕組みを生かし大学や地域との連携を図る

（２）人間教育 生徒会活動・部活動等による豊かな人間性と主体性の育成を図る

（３）学力育成 ６年一貫の効果的な教育課程による学力育成と進路実現を図る

（４）国際教育 国際教育と語学教育等の充実によるグローバル人材の育成を図る

（５）教科横断的な学習 文理の枠を越えて実社会の課題を取り扱う探究的な学習活動の充実を図る

（６）総合的な学習・探究の時間「海峡学」 キャリア教育と探究活動による主体的学習者の育成を図る

特に、「（３）学力育成 ６年一貫の効果的な教育課程による学力育成と進路実現を図る」は、本特例校の教育活動の根幹であり、特別の教育課程の編成・実施は、その目標達成に大きく寄与している。

今後は、多くの生徒が大学進学を希望し、国公立大学をめざす生徒の割合も増加していることから、前期課程において「知識及び技能」の確実な習得を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」および「学びに向かう力、人間性等」を一層高めるための指導方法について研究を深め、本特例を生かしたカリキュラム・マネジメントを推進していく必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例校においては、特別の教育課程の編成・実施により、前期課程と後期課程の滑らかな接続が実現でき、中等教育学校がめざす目標の達成が可能となる。

また、6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、社会の形成者として必要な資質を養うとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、豊かな人間性や主体性をより一層伸長することに生かされている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

本特例校は、「高大連携」をテーマとしたコミュニティ・スクールとして、前期課程3年間・後期課程3年間の計6年間を見通したキャリア教育の充実にも力を入れている。

具体的には、前期課程において、地元の国公立大学を訪問して進路意識やキャリア意識の高揚を図っており、後期課程においては、大学教授による出前授業を積極的に活用したり、大学等のゼミ訪問を通して卒業研究の指導助言を得たりするなど、地域の教育資源を活用した取組の充実を図っている。

また、地元の公立大学である下関市立大学と連携協定を締結したことにより、今後さらに「社会に開かれた教育課程」の実現を図り、本特例校ならではの特色ある教育課程の、一層の充実・発展をめざすこととしている。